

4つの調査からみた夏の外出・旅行意向のまとめ

明治安田・JTB・いこーよ総研・ロッテの調査より

① 暑さは強い懸念



4調査すべてで、暑さは外出を控える大きな理由として確認された。

特に「暑いから外出しない」という声は一貫して多い。

② 需要低下には物価・家計負担も大きい



旅行需要の低下には、暑さだけでなく、家計の厳しさや旅行費用の上昇も大きく影響している。

変化の大きさでみると、物価高・家計負担の影響拡大が目立つ。

③ 暑さは「行動の仕方」も変えている



暑さにより、外出時間を短くしたり、屋内施設を選んだり、観光・レジャーを諦める人もいる。

「行くかどうか」だけでなく、「どこへ・どう行くか」にも影響。

④ 暑さを乗り切る工夫が重要



日陰、給水、休憩場所、屋内施設など、暑さ対策へのニーズは高い。

夏の観光では「暑さをしのげる環境づくり」が重要な talking point。



最終メッセージ 夏の需要低下には、物価高・家計負担が大きく影響している可能性が高い。

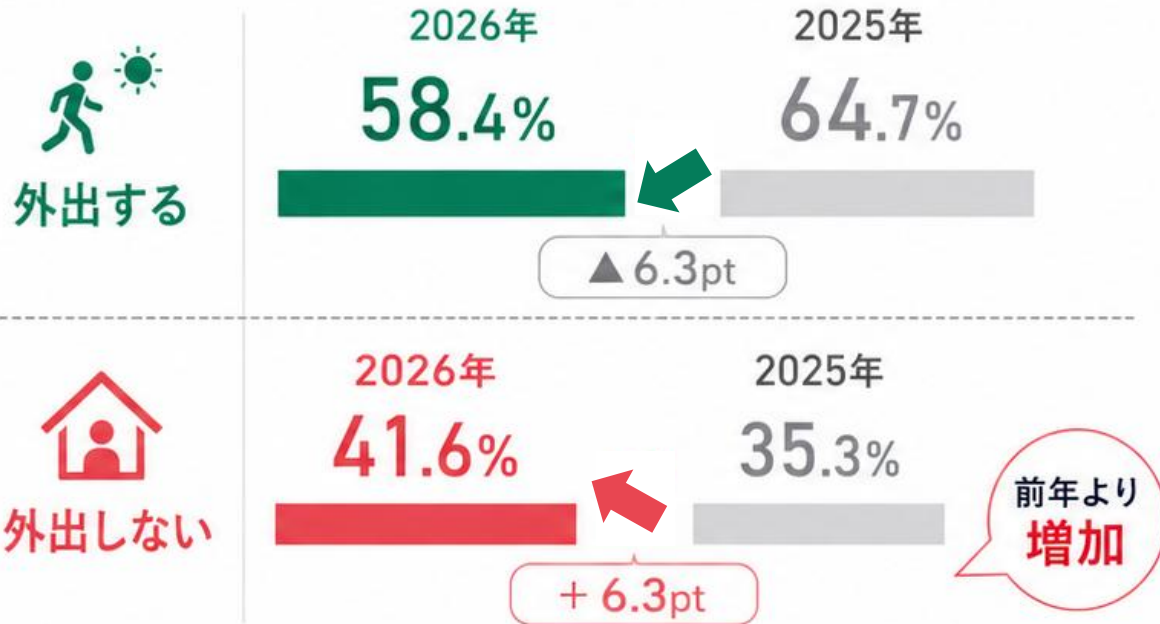
一方で、猛暑も人々の外出判断や観光行動を確実に変えている。

そのため、夏の観光では「価格」と「暑さ対策」の両方が重要である。

夏休みの外出意向と、外出を控える主な理由

明治安田「夏に関するアンケート調査」(2026年6月実施)

夏休みの外出意向の変化 (前年との比較)



外出しない理由 (外出しないと回答した人の中での上位理由)



2026年は、夏休みに『**外出しない**』人が前年より増加。

外出を控える理由としては『**暑さ**』が最多であり、物価高もほぼ同程度に大きな影響を与えている。

調査概要

- 調査名 : 明治安田「夏に関するアンケート調査」
- 調査時期 : 2026年6月9日～12日
- 対象 : 全国の20～59歳 1,120人
- 調査方法 : インターネット調査

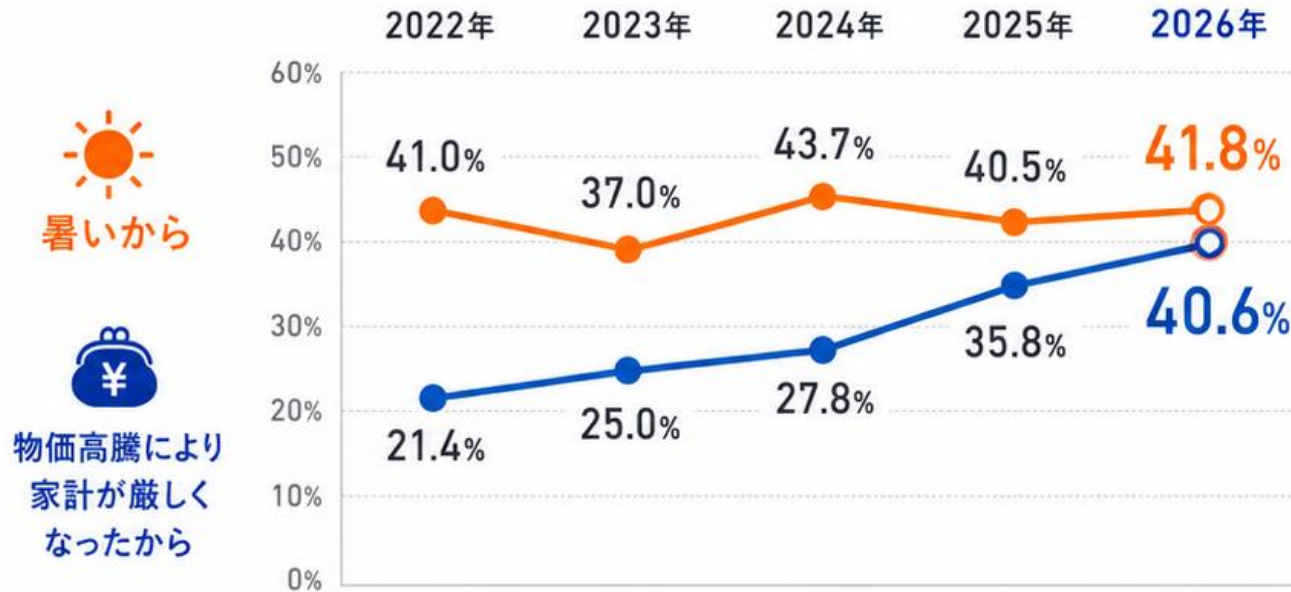
猛暑だけでなく、物価高も影響

夏の行動変化と予算動向

調査①

明治安田「夏に関するアンケート調査」(2026年6月実施)

外出しない理由の推移 (各年の外出しない人ベース：複数回答)



暑さは継続的な要因 / 物価高の影響は大きく拡大

夏休み予算平均の推移



外出予定者のうち「国内旅行」を予定



2026年は、猛暑に加えて物価高も夏季の外出抑制要因として強まっている。一方で、外出予定者の中では国内旅行の人気は維持されており、「旅行したくない」というよりも、「夏に外出を控える層が増えている」と解釈するのが適切である。

夏休み旅行意向は低下 — 物価・混雑が重荷、暑さ回避ニーズも増加 —

調査②

JTB「2026年夏休み（7月15日～8月31日）の旅行動向見通し」

夏休み旅行意向と国内旅行の動向



夏休み期間の旅行意向

30.6%

前年差 -3.6pt ↓

2026年の夏休み期間中の旅行意向は前年を下回る

国内旅行の主な動向

国内旅行者数



6,900万人

前年比 95.6%
(-4.4%)

1人あたり
旅行予定費用



48,500円

前年比 +3.2%

国内旅行消費額



3兆3,465億円

前年比 -1.4%



旅行者数は減少する一方、1人あたり費用は上昇

旅行しない理由（上位）

- 1 夏休み期間は混雑するから 29.2%
- 2 家計に余裕がないので 26.3%
- 3 家でのんびりしたいので 25.9%
- 4 夏休み期間は旅行費用が高いから 16.8%



旅行を控える主因は「暑さ」よりも、混雑・家計負担・旅行費用

旅行中に重視したいこと



暑さを避け、屋内施設での
観光や体験を楽しむ

15.8%

2



花火大会など、
夏季限定のイベントに参加する

15.3%

3



リカバリー／ウェルネス型の観光

12.7%



猛暑は旅行需要そのものよりも、“旅行の仕方”に影響



2026年夏は、旅行意向・国内旅行者数ともに前年を下回る見通しであり、背景には物価高や混雑による負担感がある。一方で、旅行者の間では「暑さを避ける観光」へのニーズもみられ、屋内観光や夏季限定イベントへの関心が高まっている。

子育て世帯の夏休みお出かけ意向

— 多くは外出予定、ただし猛暑が行動に影響 —

調査③

いこーよ総研「2026年夏休みお出かけ調査」

子育て世帯のお出かけ意向

 対象：いこーよモニター
クラブ会員（子育て世帯）

 回答数：526人

 調査時期：
2026年6月11日～17日

 全国調査

※一般全体ではなく、
子育て世帯を対象とした調査

夏休みに子どもとレジャーで

外出予定



74%

外出しない
26%

子育て世帯の多くは、夏休みに何らかのお出かけを予定

お出かけスタイルの変化（2025年→2026年）

宿泊旅行のみ



47% → 16%
↓

宿泊旅行＋日帰り



34% → 53%
↑

日帰りのみ



17% → 31%
↑

宿泊旅行だけでなく、日帰りを組み合わせる動きが拡大

外出しない理由（上位）



1位

暑いから・猛暑が心配だから

40%



2位

宿泊費が高くなっているから

32%



子育て世帯でも、“暑さ”が外出を控える最大理由

暑さへの対策



冷却グッズ・
暑さ対策アイテムを利用

65%



屋内施設を
中心に選ぶ

60%



猛暑は「外出するか」だけでなく、「どこへ行くか」にも影響



本調査は子育て世帯を対象とした調査であり、一般全体とは異なる点に留意が必要である。
一方で、家族旅行・レジャーの文脈でも、猛暑が外出を控える理由として最も多く挙げられており、あわせて屋内施設志向や日帰り活用の広がりもみられる。

猛暑は外出・観光行動を抑制

— ロッテ調査からみる“暑さによる行動変化” —

ロッテ「夏の長期化と暑さによる行動変化に関する実態調査」

調査概要



対象：
全国の10～50代 男女 2,000人



調査時期：
2026年5月24日～26日



調査方法：
インターネット調査



公表元：
ロッテ（PR TIMES）

※企業調査

外出を控える行動の増加

ここ2～3年で「真夏の暑さを理由に、
外出をやめる・外出時間を短くすること」が
増えたと感じるか



70.9%

そう思う 32.0%
ややそう思う 38.9%

猛暑は実際の外出行動を直接抑制

暑さで諦める行動

ここ2～3年で「暑さを理由に、本当はしたかった
行動を抑えたり諦めたりすること」が増えたと感じるか

64.9%

暑さで控えた・諦めた行動（上位）

- 1 散歩・街歩き 31.6%
- 2 買い物 27.6%
- 3 観光・レジャー 24.0%

真夏に“立ち寄りたくなる”設備

日陰になっている場所



給水ができる



座れる場所



子ども連れへの示唆

子ども連れの外出では、
休憩できる日陰の少なさが課題



33.8%

暑さ対策は、観光地での滞在しやすさにも直結



ロッテの全国調査では、猛暑により外出をやめたり短縮したりする人が**7割超**となった。さらに、**24.0%**は「観光・レジャー」を抑えた・諦めたと回答しており、猛暑は観光需要そのものにも影響を与えている。あわせて、日陰・給水・休憩場所などの整備ニーズも高い。